

# 令和3年度 自然保育推進事業 活動報告書

## 1、団体名

社会福祉法人みどり会 みどりの森ようこう保育園（広島県廿日市市陽光台5丁目1番地）

## 2、今年度の活動概要

近年、新型コロナウイルスが流行してしばらく経ちますが、収束の兆しも見られず、子どもたちは制限が多い日常を過ごしてきました。そのような状況であっても、豊かな自然の様々な“本物”に触れる実体験を通して子どもたちの生きる力(望む力・選ぶ力・決める力・考える力)を育てていきたいと願い、日々の保育に励んできました。緑に囲まれた園庭で、毎日泥・水の感触や気持ちよさを全身で味わい、裏山では季節ならではの自然物と関わることを楽しみました。

## 3、活動内容

年長組は1年間、今まで園生活で培ってきた力を発揮しながら子どもたちが主体となって様々な活動を楽しみました。

夏頃から「魚釣りをしてみたい」という子ども数名の思いがクラス全体に広がり、魚釣りごっこを通して興味を広げていきました。11月には七瀬川で本物の釣りをし、生き物の命にも向き合う貴重な経験もしました。

また、3月の卒園前に、極楽寺山へ登山に出掛け、クラス全員で一つの目標を成し遂げる達成感を味わうことができました。その様子についての活動報告をします。

### 【魚釣りへの興味】



年長キャンプが近づき、魚釣りへの興味が芽生えてきた頃、“自分たちで釣り竿を作ってみたいね”と、子ども同士の会話がありました。「釣り竿は、水に強い竹で作ったらいんじゃない？」の意見が出て、裏山へ竹取りに行きました。乳児組から自然にたくさん触れてきた子どもたちだからこそ、思いついた一言です。ノコギリを使い、友だちと協力しながら立派な釣り竿が完成しました。



## 【夏祭りで魚釣り】



夏祭り当日、年長組の魚釣りあそびは大盛況。他のクラスの子どもたちも手作りの釣り竿を使いながら夢中になって楽しんでいました。年長組が年下の子に使い方を教える姿もあり、異年齢の関わりも多く見られました。自分たちが作り上げたものが形になったことの喜びを感じ、いきいきとした子どもたちの表情が見られました。

## 【本物の魚釣りを楽しむ】

8月の年長キャンプで行く予定だった七瀬川の釣り堀が雨で延期になり、11月に行くことができました。「大きな魚をたくさん釣りたい!」と思いを膨らませて迎えた当日。魚が潜んでいそうなところを狙いますが、あまりにも長い釣り竿の先を投げるのが難しかったり、川の流れの速さを感じつつ、苦戦しながらも仲間と協力する姿がありました。







時間はかかりましたが、最後まであきらめることなく、全員が一匹ずつ魚を釣ることができました。「やってあげるよ」と助け合いながら魚をつかみ、針を抜きます。釣ることができた喜びを感じながらも、逃げようとする苦しそうな魚をじっと見つめる子どもたちでした。



魚を焼くための火起こしも、魚に串を刺すのも子どもたちの役目です。調理される魚を見て、「かわいそう…」と何人かがつぶやいたとき、一人の子が「でも、食べてあげん方がかわいそうなんよ」と言葉を返していました。命あるものを食すことで私たちが生きていると実感できたと思います。実体験を通して食事の前の「いただきます」の本当の意味を、理解することができた一日でした。



## 【極楽寺登山】

3月に行われた年長組最後の遠足。弥山登山を予定していましたが、コロナ禍のため人混みや交通機関を避け、極楽寺山を登りました。保育園生活で育った丈夫な体を使い、険しい山道も友だち同士で声を掛けあい頂上を目指して進んでいきます。



約3時間かけて登りきり、頂上のお寺で大仏様を見学しました。「みんなが元気な小学生になれますように…」と手を合わせてお願いしていました。



登山を通して、心も身体もまた一つたくましくなった子どもたち。仲間と共に一つのことを成し遂げる達成感を感じることができました。「自分ってこんなにすごいんだ」と自分の素敵さを感じ、自信に繋げ、春から新しい場所である小学校へ羽ばたいてほしいと思います。

<年長児の過ごしを通して…>

魚釣りや登山を体験し、川を流れる水や長く険しい山道など自然の厳しさを感じ、乗り越えることで粘り強く挑戦していける心が育まれたように思います。

自然はいつも同じではなく、変化し続けてます。その変化を柔軟に受け入れ、仲間と共に手を取り合いながら楽しむ姿に、子どもたちの成長を感じた一年でした。様々な実体験を通して培ってきた感覚や力は、日々状況がめまぐるしく変わるこの時代を柔軟にたくましく生き抜いていくための土台となっていくことと思います。